公益社団法人　小樽法人会　会長賞

小樽市立北陵中学校　3年
村上　こころ

税について

税金の作文を書こう！と思って思いついたことは高市内閣が消費税を下げる？という話でした。でも私は買い物にも行かないし、内閣についてもよく知らないので、日本の消費税が高いのかどうかもわかりません。そこで今回は日本の消費税とヨーロッパの消費税について比べてみようと思いました。なぜ比較国をヨーロッパにしたかというと、日本より先進国なイメージがあったからです。調べてみると、日本の消費税は10%、一方ヨーロッパの消費税は20%前後でした。ドイツは19%、フランスは20%、なかでもスウェーデンは25%と、とても高いことがわかりました。こうしてみるとヨーロッパの消費税は日本より高いです。では、日本のほうが安く買い物できて幸せなのではないかと思いました。しかし、ここで疑問なのが税金が高いのにヨーロッパに対する不満の声をあまり聞かないことです。そこでヨーロッパ代表としてスウェーデンの税金の使われ方について調べてみました。すると、社会保障に多く使われていて、日本より手当てが充実していることがわかりました。例えば教育。小学校から大学までの授業料が無料だったり、毎月児童への給付金がもらえたりします。次に働き方。480日の育休手当や失業後には一定の給付金を受け取ることができます。最後に医療。医療では18歳未満、あるいは85才以上の国民の医療費が無料です。こうしてみると、税金が高いと福祉も手厚くなることがわかりました。そして、人々の幸せには社会保障が直結しているんだなとも思いました。この2国の違いから、税金が高いからといって必ずしも悪ではないと学びました。それでも日本に反感の声があるのは、納めている税金に対して社会保障が少ないからだと思います。特に働き手世代に対する補償をもっと増やすべきだと考えます。例えばスウェーデンで児童給付金があるように、日本でも若者給付金や有休の十分な確保などです。これらを行うことができれば、日本は消費税が上がっても幸せな国になることができると思います。この学習を通して、一部だけれども税金の使われ方や社会保障につい

て学ぶことができました。税を調べていて、どれも新鮮で難しい言葉ばかりでしたが楽しく税について学べました。今までは政治や税金なんて興味がありませんでした。しかしこれからは少しでもニュースの話を聞いたり買い物に出かけたりして、身の回りの税について意識してみたいなと思いました。